

# ■ 学生にすすめる本



## 『 大本営参謀の情報戦記 — 情報なき国家の悲劇 — 』

堀 栄三 著 文藝春秋

医学部 血液・腫瘍内科

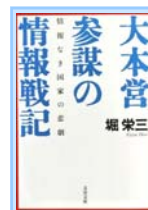
キリト ケイタ  
桐戸 敬太

本館2階 新着書架 391.6

分館2階 開架図書(第二) 391.6

医学における情報とは何であろうか。大規模臨床試験の結果から、個々の患者さんの日々刻々変化する臨床所見まですべて“情報”として一括りにすることも可能である。臨床の場では、これらの様々なレベルの情報を統合し、それに基づき的確な判断を下すことが求められる。戦場でも同様である。人の生命がかかっていると言う点では、全く同質とって良いかもしれない。本書は、旧日本軍の情報参謀であった、堀栄三氏の著書である。戦中そして戦後の体験を元に、情報をいかに収集し分析し、そして実際の判断にどのように生かしていくのか、冷静な筆致で記述されている。“情報はときにうそをつく”，“情報は必ず2線，3線を交差させ、判断せよ”などの短い、示唆に富む言葉が並ぶ。

さらに，“情報を100%集めることはできず、その空白の部分をもどのように解明し、処理するかが情報に携わるものの最重要な任務”とし、そのためには、データベースではなく，“職人の勘”がものをいうとの言葉がある。臨床医学においては、大規模臨床試験に基づいたEBMの重要性が叫ばれて久しい。しかし、本当にEBMがすべて正しいのであろうか。日常診療での個々の症例にあてはめようとする、情報の空白が多いことに気づく。この空白をいかに埋めるかは、やはり臨床医の“職人の勘”ではないだろうか。実際の臨床や医学研究においても多くの示唆を与えてくれる書である。



## 『 ブラック企業 — 日本を食いつぶす妖怪 — 』 ほか

今野晴貴 著 文藝春秋

生命環境学部 地域社会システム学科

カドノ ケイジ  
門野 圭司

本館2階 新着書架



このコーナーでは1冊に絞ってやや詳細に紹介するのが慣例のようですが、1冊ではもったいない気がしますので、思い切って趣向を変えます。ここ1年で私が手に取った一般読者に向けて書かれている本の中から、途中で投げ出さずに最後まで読み通した何冊かをランダムに紹介します。（私が著書の内容に全面的に賛同しているかどうかはまた別の話ですので、誤解の無いように注意してください。）

『ブラック企業』：8月に「第2回ブラック企業大賞」の結果が発表されたばかりですが、「ブラック企業」という言葉を世の中に広く認知させるに多大な貢献のあった著書です。

『希望を捨てない市民政治』：徳島県で国が建設を予定していた吉野川可動堰を建設中止に追い込んだ市民運動に関する、運動の中心を担ったうちの一人による詳細な記録です。

『「尖閣問題」とは何か』：多くの人々が「一つの立場と一つの論理」に固執しがちな「領土問題」について、国際政治に関する豊富な知識に基づいて「相対化」を試みています。

『「原発事故報告書」の真実とウソ』：福島第一原発の事故に関する4つの「原発事故報告書」を丁寧に読み比べたうえで、それぞれの報告書の特徴を浮き彫りにしています。

他にも『独立国家のつくりかた』『キャリア教育のウソ』『経済大陸アフリカ』など多々ありますが、字数制限のため断念しました。また、同様の理由で著者名と出版社名も省略していることをご了承ください。

